

<巻頭言>



ゆとりの時代のダムと農村の整備

中 道 宏*

いま農村に熱い視線が注がれている。都会の喧騒に疲れた若者が、老夫婦が、そしていわゆるニューファミリーが、その魅力に引き寄せられて農村に移ってきている。4全総の策定作業中の国土庁による調査でも、農村に居住を愛好する人々が確実に増えてきたことが判明している。また、移住しないまでも、市民農園や農村留学といった形で農村と交流したいという都市住民が近年飛躍的に増加したことも明らかである。

彼らはなぜ農村をめざすのだろうか。一言で言えば、ここで文明と環境の問い直しが行われているのである。21世紀に向けて、国民が金では購えない本当の豊かさを真剣に考えるようになってきた結果、農村の持っている自然環境や「ゆとり」、「やすらぎ」の価値に気付いて、自らのライフスタイルを変えようと手探りし始めたのである。その流れの中で「農」が再発見された。

ところで、大方の日本人が農村に求める環境は、野生のままの姿、原野のように生のものではなく、あくまで人の手によって管理された自然であることが多い。水田や畑、森林のほか、人工構造物であるため池や水路、堰までが全体として調和の取れたたたずまいを見せている、そんな風景である。

確かに農村には水と緑と土の恵みが満ち溢れているように見える。しかし、温暖多雨のこの国の風土では、適切な管理がこれらの恵みを保つのに不可欠であることは案外知られていない。二千数百年にも及ぶ「農」の営みがそれを代行してきたのである。

前置きが長くなったが、古代のダムともいえるため池は、こうした営みの中に重要な位置を占めてきた。現在でも約27万か所あるため池は、『古事記』、『風土記』の時代から谷をせき止めて造られ、いまもわが国の全農地の2割に当たる約111万haを潤す重要な用水源となっている。そればかりでなく、ため池の持つ農業水利慣行が、比較的限られた水を集団的に利用・管理してきたために、農村社会の維持・形成にも大きく貢献してきたことは、識者の一致する見識である。

現代のため池は、こうした働きを継承しつつ、求められる農村景観の一要素を形づくるとともに、貴重なオープンスペースと豊かな水辺空間を提供している。香川県の満濃池を持ち出すまでもなく、歴史的・文化的な由緒を持つものも多い。こうしたソフトな役割は、現代人がいままきに求めているものである。

翻って現代の農業用ダムはどうか。水田の汎用化や畑地かんがいの進展に伴う農業用水の新たな需要に対する水資源開発の手段として、農業用ダムの建設はその必要性を一層増している。反面、地形、地質的な面から建設適地が減

* 農林水産省構造改善局建設部長

少し、水源問題等もあり、ダム建設をとりまく環境は厳しくなっている。さらに、内外ともに厳しい農業情勢の中で、建設コストの低減を図らなければならない。

現代の農業用ダムの整備を推進するに当たっても、ため池の持ち続けてきた自然との調和の様相に限りなく接近することが望まれるであろう。このため、環境の保全に配慮した設計・施工技術に一層の向上が要求されよう。地域住民に憩いと潤いの場を提供する観点から、農業の発展に資する利用との調整を図りつつ、農村の快適な生活環境の確保、美しい農村空間の維持・形成に配慮し、たとえば親水機能が十分発揮されるような整備を積極的に進めていく必要がある。

さて、現代の農業用ダムは、そのほとんどが農林水産省が実施する農業基盤整備事業により建設されてきた。この事業は、これまで農業用ダムを代表とするかんがい排水施設等の農業生産基盤の整備を進めてきたが、それとともに、特に近年、時代の要請に応え、農村空間の特質を踏まえて農村の生活環境の改善を図る事業も進め、実績も厚く蓄積されてきた。

国民生活の質の向上を図ることが国政上の重要課題の一つとなっていることを踏まえ、今後さらに重要となる農村の良さを活かした事業の新たな展開を図るため、従来の農業基盤整備事業は、平成3年度から農業農村整備事業に名称変更され、事業内容も①農業の生産性の向上を図るための農業生産基盤整備事業、②農村の生活環境の整備を図るための農村整備事業、③農村地域の農地や土地改良施設を保全管理するための農地等保全管理事業、という3つの政策目的別に再編された。

さらに、事業の再編に加えて、21世紀における農村の姿、役割を考慮し、美しい田園空間を創出し、農村住民のみならず広く都市住民にも開かれた憩いの場を供するため、ダムを含む施設の親水・景観等の環境整備事業や水と緑を適正に配置した美しい居住空間を創出する事業なども従来の発想を超えて多数創設された。

文明と環境が問い直されている現代、「農」という営みの変わらぬ輝きの一端を支えているため池やダムは、ますますその役割を多彩にしていくことであろう。そのための技術や事業、建設体制などの研究の進展を強く希求するものである。